

1 当センターにおける髄液培養陽性症例

2 の検討

3
4 ○佐藤万里 里村秀行 大土由里子 (千葉県がんセ
5 ンター)

6
7 【はじめに】近年,医療の進歩により,compromised
8 host(易感染宿主)による感染症の増加が問題とな
9 っている.当センターでは,癌化学療法などにより
10 日和見感染を惹起しやすい患者背景を有する.今回,
11 敗血症や肺炎などと並び重症感染症の一つである
12 髄膜炎を対象を絞り検討を行った.

13 【対象】2003年から2008年までの5年間で,髄液
14 培養陽性の39症例を対象に検討し,具体的な症例と
15 共に報告する.

16 【結果】39症例の年齢分布は,9~77歳(平均56歳)
17 で,性差は男性18例:女性21例(6:7)であった.その
18 うち,最も検出されたのは *S. epidermidis*:13症例
19 (33.3%), *CNS*:7症例(17.9%), *S. aureus*:6症例
20 (15.4%), *B. cereus*:3症例(7.7%)であった.

21 【症例1】59歳,女性.2008年1月25日肺癌にてリ
22 ンパ球治療中,周期的な38℃台の発熱が続き髄液に
23 て好中球優位の細胞数増加が見られ,培養を施行
24 *Propionibacterium acnes*が検出される.CTM投与に
25 より細胞数は減少傾向であったが,3月24日再び増
26 加し髄膜炎が再燃.reservoir 除去,IPM/CS投与によ
27 り培養が陰性化した.

28 【症例2】55歳,男性.2008年7月27日神経膠芽腫
29 再発の治療中,39℃を超える発熱があり,血液培養
30 を施行.翌日の髄液にて好中球優位の細胞数増加と
31 強溶血が見られ,髄液培養と血液培養から *Bacillus*
32 *cereus*が検出された.MEPM投与するも解熱せず,重
33 症敗血症により7月30日死亡した.

34 【まとめ】今回の2症例とも抗がん剤治療を受けて
35 いた.そのため,常在菌などの弱毒微生物による感
36 染で再燃や,重篤化したものと思われる.
37 compromised hostから検出された日和見感染原因菌
38 が起因菌であるかの見極めが重要である.

39 043-264-5431(内線3733)